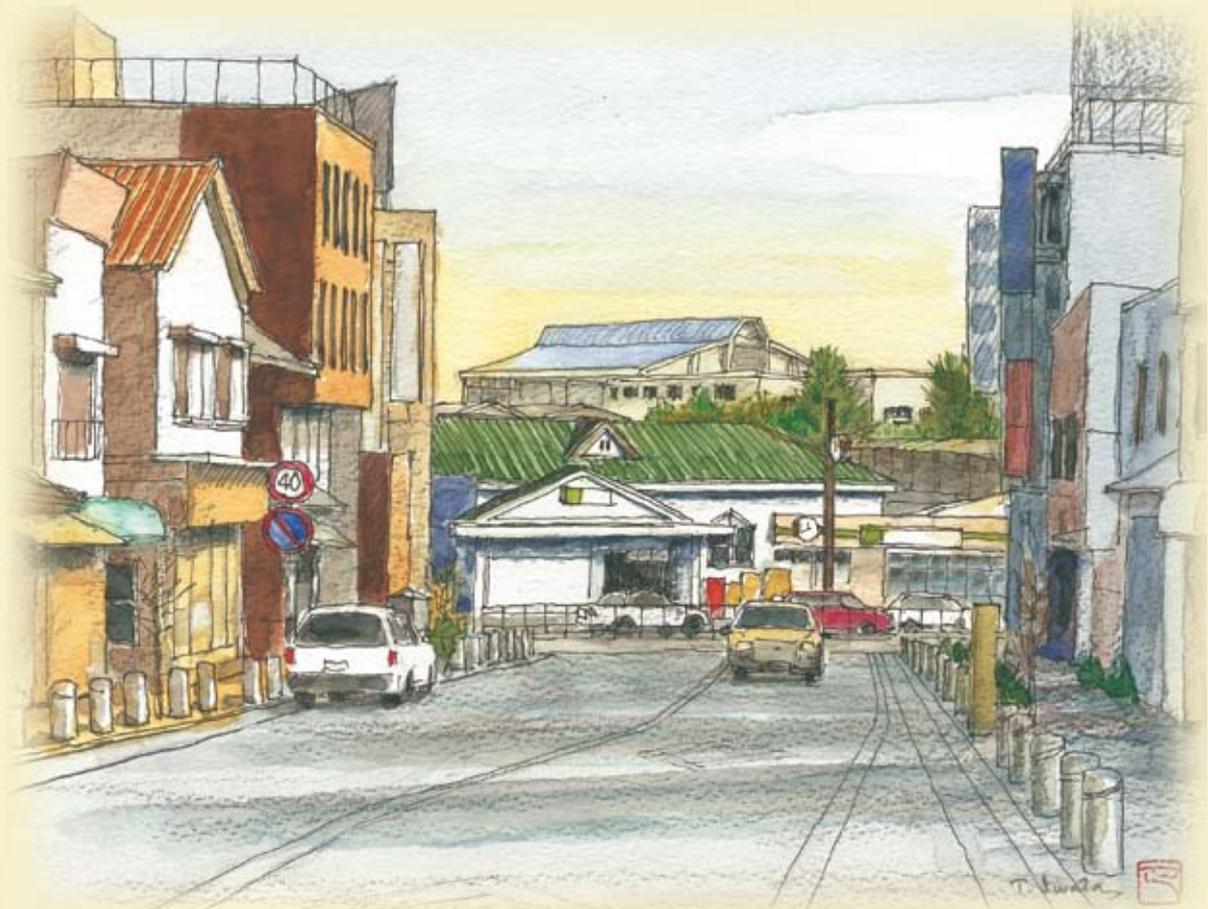


# いしおか

1・1

No. 54



提供：石岡まちづくりアカデミーⅢ

## 主な内容

- ねんりんピック茨城 2007 P4  
古澤国一さん 元気に選手宣誓
- 旧朝日小を会場に P6  
150 人がトカイナカを体験
- 秋の叙勲・褒章 P7
- 産業祭・ふれあいまつりに P12  
あわせて9万人が来場！

## 石岡駅前の風景

(国府一付近)

駅前通りは、昭和5年昭和天皇が陸軍大演習で行幸したため、御幸通りと名付けられました。通称、八間通り。このほど電線類の地中化工事が完了し、バリアフリーの歩きやすい歩道が完成しました。

正面の石岡駅は、明治28年に開設され一世紀以上の時を刻んでいます。

高台に見えているのは、平成3年築の石岡一高の体育館です。同校は、平成21年に創立100年を迎えます。

# 謹賀新年



石岡市長  
横田 凱夫

## 「新しい石岡市」実現に向けて

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、健やかに平成二十年の新春をお迎えのことと拝察し、心からお喜び申し上げます。

皆様には、平素から市政各般にわたり深いご理解と力強いご支援を賜りますことに心より御礼を申し上げます。年頭にあたり、今後の石岡市のまちづくりに向け、決意を新たにしているところでございます。

私は市長就任以来、常に「公平・公正・清潔な政治」と「市民の皆様視点に立って」を基本に市政運営を行ってまいりました。

昨年四月には、真に豊かな

「新しい石岡市」の実現を目指し、「第一次石岡市総合計画」を策定いたしました。本計画

は、「人と人がふれあう協働によるまちづくり」、「暮らしと自然・歴史が調和した活力あるまちづくり」、「安心とやすらぎに包まれた生きがいのあるまちづくり」の三つを定め、さらに本市の将来像を「風と時が輝く〆和のまち いしおか」とし、今後十年間のまちづくりの指針とするものです。

すでに、合併特例債を活用した事業では、朝日トンネルあるいは石岡市北部地区の常磐自動車道路へのETC専用インターチェンジ誘致等、動き出している事業もございます。

つくばエクスプレスの開通以来、筑波山周辺への観光客の増加が話題となっておりますので、石岡市側へ足を運んでいただけよう、道路交通網の一層の整備充実も含め、誘客策を進めてまいりたいと考えております。

また、次代を担う子どもが「生きる力」を育み、健全な地域社会や安定した社会基盤を引き継いでいけるよう少子化対策の推進を図るため、昨年引き続き妊婦健診およびマル福医療制度等の充実に取り組んでまいります。

今後とも市政運営に全力を傾注してまいりますので、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、本年が市民の皆様お一人お一人にとりまして、素晴らしい一年となりますよう、ご祈念申し上げます、新年のあいさつといたします。



石岡市議会議長

久保田 健一郎

## 活力と賑わいのあるまちづくり

新年明けましておめでとう  
ございます。

市民の皆様には、お健やかに  
新春をお迎えのことと、心よ  
りお喜び申し上げます。

市議会を代表いたしましたして、  
謹んで新年のごあいさつを申し  
上げます。

市民の皆様には、平素より  
温かいご支援ご協力を賜り、心  
より厚く御礼申し上げます。

さて、石岡市は、皆様ご承  
知の通り、豊かな自然や歴史的  
遺産を数多く有するなど素晴ら  
しい地域資源に恵まれておりま  
す。また、つくばエクスプレス  
の開通や間近に控える茨城空港  
の開港、そして現在、進められ

ております朝日トンネルの整備  
など、今後のまちづくりに大き  
な期待が寄せられております。

本市も合併以来、新市の一  
体性の確保や地域間の融合を積  
極的に図るなど新市建設計画の  
着実なる推進を図ってまいりま  
した。今後さらに、合併特例債  
を活かしながら、平成十九年度  
より新たにスタートした新市の  
将来ビジョンである「第一次石  
岡市総合計画」の計画的な実施  
など引き続き主要施策の着実な  
実現に向けて、なお一層努力し  
ていくことが重要であると考え  
ます。

市議会といたしましても、厳  
しい財政状況の中、引き続き、

効率的な行財政運営を図るよ  
う、執行部に対し、市民サービ  
ス向上のための提言を積極的に  
行ってまいります。

また議会自らも一層開かれ  
た議会を目指し、議会改革を進  
め、市民の皆様のご意見をいた  
だきながら、活力に満ちた石岡  
を築くため、議員一同全力を傾  
注して参る所存でございますの  
で、市民の皆様のご支援ご協力  
をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本年が市民の皆様にと  
って素晴らしい年でありまし  
すことをご祈念申し上げます  
と、新年のごあいさつといたし  
ます。

ねんりんピック茨城2007

# 古澤国一さん

## 元気に選手宣誓

全国健康福祉祭「ねんりんピック茨城2007」が11月10～13日の4日間にわたり、県内21市町を会場に開催され、47都道府県と17政令指定都市から選手・役員を合わせ、約1万人が来県しました。



選手宣誓する古澤選手と片岡選手



勇壮に舞う幌獅子



茨城の民謡「磯節」を披露



歓迎のあいさつをする橋本知事



炬火ランナーは西野義雄さん（75歳）



市指定文化財「柿岡館獅子舞」



雨の中、熱心に声援を送る観客



市指定文化財「柿岡荒宿ささら舞」

ねんりんピックの愛称で親しまれているこの大会は、スポーツや文化・芸術活動を通して、シニア世代の健康づくりや生きがいづくりを目指すもので、昭和63年に第1回大会が兵庫県で開催されて以来、毎年開催され、茨城大会で第20回の節目を迎えました。

大会初日となった10日には、ひたちなか市の笠松運動公園に常陸宮ご夫妻をお迎えし、総合開会式が開催されました。大会会長の橋本知事からは「日頃の活動の成果を存分に発揮し、心に残る思い出深い大会にして欲しい」と歓迎のあいさつがありました。

また、会場では郷土色豊かなアトラクションが披露されました。当市からも土橋町や仲之内町などの幌獅子と柿岡館獅子、荒宿のささらが伝統の舞を披露し、集まった1万4000人の観客を楽しませていました。

選手宣誓では、本県選手団のなかで最高齢の石岡市在住の古澤国一さん95歳と社会人野球チーム茨城ゴールデンゴールの片岡安祐美選手が、「いばらき宣言」をして、明日の茨城をつくる決意をアピールしていました。



スタートの迫力に圧倒



選手を出迎えるスタッフたち



いいききヘルスメイト石岡の3人



雨の中、がんばってくれた園児たち



みんなに大人気だった、うしくん



家族そろって、ゴール



一般参加の部で最高齢者賞の小沼照子さん



優勝した愛知県チーム

## 石岡市オリエンテリング交流大会に400人

11月11日、「ねんりんピック茨城2007オリエンテリング交流大会」が、茨城県畜産センターを会場に開催されました。当日は雨天にもかかわらず、400人を超える選手と協力団体・スタッフなど総勢約1500人が集まり、会場は熱気に包まれました。

開始式では、32の県・政令指定都市代表チームが華やかに紹介され、茨城県の代表チームで

ある「いいききヘルスメイト石岡」の大澤さん・鯉淵さん・丹治さんの3人が選手宣誓を行いました、大会の幕が上がりました。

今大会のオリエンテリングは、地図とコンパスを使って、50か所のチェックポイントを時間内にどれくらい探してゴールできるかを競うスコア・オリエンテリング形式で、体力と判断が要求されます。

スタート位置では、幌獅子の

舞を楽しそうに観覧していた選手の方々が、スタートが近づくと真剣な眼差しに変わり、観客たちもその迫力に驚か

されました。競技時間は90分ですが、愛知県チームは、60分以内ですべてのチェックポイントを探して優勝に輝きました。

一般参加の部では、県外からも多くの参加者が集まり、雨が降り続いてびしょぬれになりながらも、元気にオリエンテ

リングを楽しんでいました。なかでも、市内在住の小沼照子さんは82歳の最高齢者として参加し、見事ゴールしました。

競技後のアトラクションでは、障害者支援施設光風荘バンド「カムカム」やひかり保育園とばらき台幼稚園の園児たちによる鼓笛隊の演奏が行われ、会場に集まった人たちが盛大な拍手が送られました。その後行われた石岡囃子やフラダス、コーラス、ブラスバンドなど、数々のアトラクションに、

選手たちからも歓声とともに暖かい拍手が送られていました。会場には、もてなしや物産コーナー、健康増進コーナーが設けられ、多くの人たちににぎわいました。

大会の最後には、それぞれの部の表彰が行われ、「オリエンテリング交流大会」の幕が下りました。

来年は、鹿児島県でねんりんピックが開催されます。茨城県代表の選手たちの活躍が楽しみです。

# 旧朝日小を会場に

# 150人がトカイナカを体験

11月18日、つくばエクスプレスの利用客や東京の団塊の世代を対象に、田舎料理とふるさと体験事業のニューニュー開発を目的としたモニターイベントが八郷地区の旧朝日小学校を会場に行われました。



抜き方のコツを教わり、大根を手に大喜びの参加者

当日は、旅行会社を通じて募集した東京の団塊の世代やつくばエクスプレス沿線の住民約150人が参加。会場に着くと、石岡ばやし陸前会の皆さんによる獅子舞やお囃子で歓迎を受けました。その後、さまざま体験メニューが用意されている、懐かしさの残る旧朝日小の木造校舎へと入っていききました。



三たてそば（挽きたて、打ち立て、茹でたて）は絶品

お昼を迎える頃には、地元の方々による「しし鍋」や「新そばの手打ちそば」、さらには「新米のおにぎり」と地元食材にこだわったごちそうが振る舞われました。参加者は盛りを迎えた里の秋景色を楽しみながら心のこもった料理を味わっていました。また、帰りには手作りの作品や新鮮な野菜をたくさん抱え

教室では、正月飾りのミニ門松をつくる竹細工や藍染め、シイタケの植菌作業に慣れない手つきでチャレンジしていました。また、近くの大根畑では、農家の方から「体の真ん中で引き抜くと上手く抜けるよ」と教わりながら、大根抜きを体験し、太く立派な大根を抜いた参加者からは「やったー」の歓声とともに満面の笑みがこぼれていました。



竹馬は手足の一体感がポイントですね

ながら、バスや自家用車に乗り込んでいきました。

東京から参加した女性は、「周りの景色にとけ込んだ木造校舎がとてもすてきです。ゆっくりとした時間が過ごせました」と喜んでいました。また、家族連れで千葉県から参加した男性は、「どれも楽しい体験でした。このような里山の残る石岡をもっとPRしたほうがいい」と話していました。

実行委員会では、今回のモニターの皆さんからのアンケートを分析して、これからの田舎体験や田舎料理のメニューづくりの参考にし、今後はトカイナカ・いしおかを地域ブランドとして確立させたいとしています。今後が楽しみです。



シイタケ菌の入ったコマを真剣に打ち込む男の子



# 秋の叙勲・褒章



平成十九年秋の叙勲、危険業務従事者叙勲、高齢者叙勲、褒章において、石岡市から次の方々が永年の功績により晴れの栄誉に輝きました。

## ◆秋の叙勲◆



瑞宝小綬章  
米家 達朗  
(元公立高等学校長)



瑞宝中綬章  
佐野 幸三  
(元東京管区気象台長)

## ◆危険業務従事者叙勲◆



瑞宝双光章 (防衛)  
菅野 實  
(元二等空尉)



瑞宝単光章(消防)  
嶋田 貞夫  
(元石岡市消防司令)



瑞宝単光章(防衛)  
菅野 均  
(元三等空尉)

## ◆高齢者叙勲◆



旭日単光章  
小松崎 長太  
(元八郷町議会議長)



藍綬褒章  
小松崎 裕  
(石岡地区防犯協会分会長)



藍綬褒章  
大和田 達郎  
(石岡商工会議所会頭)  
(順不同・敬称略)

## ◆褒章◆

### 菊地四郎顕彰に 下林の久家さん



▲久家喜八郎さん(左)

このほど、下林の久家喜八郎さんが、平成19年度の菊地四郎顕彰(善行)を受賞しました。久家さんは、林地区敬老祝賀会において20年にもおよび無償でぶどうを提供してきました。この善行に対し菊地四郎顕彰が贈られました。

### 菊づくり日本一!

### 高松宮妃記念杯に 大砂の弓野さん

このほど、菊づくりの日本一を



▲弓野多喜男さん

を競う第24回日本菊花全国大会が開催されました。この大会は、全国の菊づくり名人が一堂に会し、栽培技術の粋を競い合う大会です。11月5日の審査で、「三本立花壇の部」において大砂の弓野多喜男さんが高松宮妃記念杯(第一位)の栄冠に輝きました。



▲第一位の弓野さんの作品

### 石川さんが功労者表彰

### 市体協が優良団体表彰



このほど、体育指導員の石川潤さんが「地域住民の

体力向上とスポーツの普及振興」に永年にわたり貢献した功績が認められ、(財)全国体育指導委員連合会から功労者表彰を、石岡市体育指導委員協議会が優良団体表彰を受けました。

# まちの話題 できごと

## 震度7の直下型を想定し 総合防災訓練



晴天に恵まれた11月18日、フーラルシティ南台において、平

成19年度石岡市総合防災訓練が、市や消防署、自主防災組織など約40の関係機関や団体、また南台地区住民など約1200人の参加により実施されました。

この訓練は、「18日午前9時に、茨城県南部を震源とするマグニチュード7.3程度の直下型地震が発生。市では震度7を記録し、市内各所で家屋の倒壊やがけ崩れ、火災などのほか、電気や水道などのライフラインの施設に大規模な被害が発生した」との想定で行われました。

▲市民によるバケツリレーでの消火訓練

訓練は、土砂排除活動、倒壊建物搜索救助活動、市民によるバケツリレーや消火器での消火訓練、各ライフラインの復旧活動、多数傷病者の事故対応救出活動など本番さながらに実施されました。

また、会場には煙体験コーナーや地震の模擬体験ができる起震車が設置されました。震度6強の揺れを体験した親子は「座つての体験だったので我慢できました。でも実際に同程度

の地震が起きた時は、とても火などできない」と話していました。



▲起震車で、揺れを体験している親子

## 献上柿の審査会 今年は甘く上出来

富有柿の産地としては北限といわれる八郷地区で、皇室に献上する富有柿の審査会と箱詰作業が、八郷総合支所で行われました。

柿の献上は、八郷地区真家の生産者が宮内庁に納めたのが始まり。昭和44年からは旧八郷町、合併後は石岡市にと引き継がれ、半世紀にわたり行われています。15日には、菊地副市長と生産者が、宮内庁と東宮御所に持参しました。

柿献上は、市内八郷柿振興協議会に加盟する丸園柿出荷組

合、やさと農協柿部会、十三塚・上曾柿出荷組合の持ち回りで担当します。今年は、十三塚柿出荷組合の生産者3人から寄せられた180個の柿を、揃いの法被に手袋姿の市長らが更に厳選し、天皇、皇后両陛下と皇太子殿下あてに、24個ずつ桐箱に3箱1寧に詰めました。

作業を終えた生産者は、「今年の夏は猛暑だったので出来が心配でしたが、糖度が乗り高品質な柿をお届けできます」とホッとした面持ちで話しました。



▶八郷総合支所で献上柿を審査

## 新そばに舌鼓

### そばまつり開催



▲大人気のそば打ち体験コーナー

11月23日、農産物直売センター石岡そだちで「第8回石岡市そばまつり」が開催されました。市では、米の生産調整に伴う転作物として「そば」を推進しており、そばまつりは、生産されたそばのPR販売を目的に行われています。

当日は、市内外から大勢の皆さんが集まり、新そばに舌鼓をうっていました。特に、そば打ちの体験コーナーには多くの人が集まり、慣れない手つきでそばを打つ姿もみられました。

他にそば会食やじゃがいものつかみ取り、新鮮な農産物の直売なども行われ、来場した方は秋の実りを満喫しました。

## 秋晴れのもと 商工祭に3万人



▲氷水の中に手を入れて、さんまをつかみます

11月4日、爽やかな秋晴れのもと、いしおかイベント広場で第23回商工祭が開催され、3万人の市民が訪れました。

当日は、地元食材を使った元氣鍋やツエッペリンカレーなどが用意されました。なかでも石窯で焼くピザのコーナーには、順番待ちの長い列ができました。ほかに、さんまトンのつかみ取りや桑江知子ライブ、ひかり保育園・ばらき台幼稚園による鼓笛隊や府中中学校ブラスバンドによる演奏などイベントも盛りだくさんでした。竜のエアートランポリンやはしご車の体験搭乗には、親子連れが順番待ちをしていました。また、ふ

れあい動物園には子どもたちが集まり、ひよこやうさぎを大事そうに抱える姿が見られました。

イベントの最後には、恒例のビンゴゲームと餅まきが行われ、あちらこちらから歓声が上がりました。

## 綺麗な紅葉と しし鍋を満喫

筑波山の麓にあるつくばねオートキャンプ場で、11月25日第2回しし鍋まつりが行われました。このまつりは、農作物を食い荒らすイノシシを活用し、逆に地域おこしをしようと市民グループが企画したものです。2年目を迎えた今年は、しし



▲温かいしし鍋を頬張る家族連れ

鍋や新そばの粉を使用した手打ちそば、新米のおにぎりなど約800食を用意、秋の味覚を存分に味わうまつりとなりました。

千葉から参加した親子連れは、「綺麗な紅葉の中、めずらしいしし鍋や美味しいそばをいただきたい。今度は友達を誘って、一緒にキャンプをしに来たいですね」と話していました。

主催者の一人木崎眞さんは、「二週性のイベントではなく、地域の飲食店などにも協力してもらい、しし鍋がいつでも味わえるようにしたい。そうすれば害獣であるイノシシで地域おこしができる、一石二鳥となる」と意気込みを語ってくれました。

今後がますます楽しみなおまつりです。

## 子どもの生活調査 毎朝食べる児は9割

最近、朝食を食べない子どもが増え、体力ばかりか知能の発達にも悪影響がでているといわれ、文部科学省がその実態調査に乗り出しました。それが「子どもの生活リズム向上のための調査研究（早ね早起き朝ごはん）」で、その調査を茨城県地



▲府中小の校門前で朝のあいさつ運動

域女性団体連絡会が受託しました。府中小学校が実態調査の対象校（県内12校）として指定され、石岡市地域女性団体連絡協議会（以下、市地女連。鈴木かつ会長）がその調査をすることになりました。

市地女連では府中女性の会が中心となつて、生活リズムのアンケート調査をするほか、毎週金曜日に府中小学校で「おはよう。ごはんいっぱい食べたかな？」と子どもたちに語りかけながら「朝のあいさつ運動」を行っています。

項目	朝食			内容	6月	7月
毎朝食べる	90.8	6.9	2.1	週1〜2回食べない	0.2	0.2
週3回以上食べない	88	8.4	3.3	週3回以上食べない	0.2	0.2
無回答						

※アンケート調査の一例（単位：％）

## 正上内自主防災訓練 165人が参加

正上内区では、区民の防災意識の高揚と親睦を図るために、11月25日 自主防災組織の防災訓練を北府中三丁目ちびっこ広場で行いました。

この訓練には地区住民165人が参加。各自が徒歩で会場へと避難し、119番通報訓練装置を使用しての火災通報訓練や、各部に分かれて部内の危険箇所などを話し合い地図を作成する、図上訓練などを行いました。

訓練終了後は、子どもたちと一緒に餅つきをして、雑煮やあんころ餅、豚汁などをみんなで作って食べました。

訓練の参加者たちは「地域の安全と防災のため、今後も引き続き努力していきたい」と話していました。



▲部ごとに危険場所の地図を作成